

長岡工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	地域産業と技術	
科目基礎情報						
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	専攻科一般科目		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	スライド資料, プリント 等					
担当教員	田中 聡, 陽田 修					
到達目標						
(科目コード: A0020 英語名: Local Industries and Technology) (授業計画の週は回と読替えること) この科目は長岡高専の教育目標の(F)と主体的に関わる。この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下に示す。 ①新潟県内の主要産業と技術の状況を理解する。50% (F2) ②新潟県内の産業や技術について調査・分析を行い、発表する。50% (F2)						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	新潟県内の主要産業と技術の状況を詳細に理解する。	新潟県内の主要産業と技術の状況を理解する。	新潟県内の主要産業と技術の状況を概ね理解する	左記に達していない。		
評価項目2	新潟県内の産業や技術について詳細に調査・分析を行い、発表できる。	新潟県内の産業や技術について調査・分析を行い、発表できる。	新潟県内の産業や技術について概ね調査・分析を行い、発表できる。	左記に達していない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	地域の産業・経済に対する関心は、日本だけではなく世界的に高まってきている。地域経済なしに日本経済も世界経済も存在しえず、地域経済及びそれを支える地域産業と技術を調査・分析することの意義は大きい。この科目では、新潟県内の産業と技術の状況を理解するとともに、自ら調査・分析することを通して地域の産業・経済について理解を深める。この科目は、新潟県内の企業で技術管理、営業などの実務を担当していた教員がその経験を活かし、グループワークにより授業を行うものである。ワークの内容は、地域企業への取材をとおして、実務技術者及び経営者から技術管理、事業運営手法等について学ぶ実習形式の授業を行うものである。また、この科目は、2名の教員が複数教員担当方式(毎回の授業を複数の教員が同時に担当する科目)で行う。 ○ 関連する科目: 歴史学、哲学、経済学(前年度履修)、地域文化論(後期履修)					
授業の進め方・方法	地域産業と技術について、グループごとに新潟県内の企業を独自で調査・分析するとともに、企業を訪問、又はWeb会議を利用した取材を行う。調査・分析・取材の成果は、企業のPR原稿として作成し、これを発表する。この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポート課題などを実施する。 この授業は学修単位科目のため、事前・事後学習として、「週ごとの到達目標」欄にある課題等を事前・事後に予習・復習することが必要です。					
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス ・ 授業内容, 課題の説明 ・ チーム編成発表 ・ アイスブレイク	地域産業と技術について学ぶことの意義を理解する。企画を効率的に実施し成功するための組織とコミュニケーション手段(インフラ)を構築する。 課題: 新潟県の中小企業, 中堅企業の現状に関する課題		
	2週	取材・情報収集の演習 「インタビューリサーチワーク」 ・ PR原稿作成の目的 ・ 取材、情報収集を効果的に行うための演習	取材対象者が言語化できない潜在的な想いをインタビューをとおして抽出するための手法を理解する。 課題: ワークの成果			
	3週	・ 対象企業発表 ・ 工程計画 ・ 情報収集①	時間的制約条件に対応した工程計画を立案できる。 課題: プロジェクト工程表			
	4週	・ 情報収集② ・ 対象企業との第1回打合せの計画	取材方針をチームで決定するために、適切な情報収集、論理的な議論、合意形成ができる。適切な連絡手段で学外実務者へのアポイントメントができる。 課題: 対象企業の情報収集に関する課題1			
	5週	・ 対象企業担当者との第1回打合せ ・ 取材日程の連絡・調整	学外実務者との打合せを円滑に実施できる。また、打合せ記録を作成・保存できる。 課題: 打合せ議事録			
	6週	・ 取材計画の立案	取材方針をチームで決定するために、適切な情報収集、論理的な議論、合意形成ができる。 課題: 企業訪問・取材実施計画書			
	7週	・ 企業訪問・取材	企業を訪問・取材し、新潟県内の産業と技術の現状と課題、独自技術を理解し、企業の強味、PRポイントなどを収集する。 課題: 企業訪問・取材実施報告書			
	8週	・ 取材に基づくコンセプトの検討 ・ レイアウト, 必要素材の検討	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、対象企業の独自技術、強みなどについて理解しPRポイントを整理できる。成果を基にPR原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。 原稿作成に関する課題1			

2ndQ	9週	<ul style="list-style-type: none"> 原稿作成 対象企業へ必要素材の依頼、取材の補足。 	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、対象企業の独自技術、強みなどについて理解しP Rポイントを整理できる。成果を基にP R原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。学外実務者との打合せを円滑に実施できる。また、打合せ記録を作成・保存できる。 原稿作成に関する課題2
	10週	<ul style="list-style-type: none"> 原稿作成 対象企業へ必要素材の依頼、取材の補足。 	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、対象企業の独自技術、強みなどについて理解しP Rポイントを整理できる。成果を基にP R原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。学外実務者との打合せを円滑に実施できる。また、打合せ記録を作成・保存できる。 原稿作成に関する課題3
	11週	<ul style="list-style-type: none"> 原稿作成 対象企業へ必要素材の依頼、取材の補足。 	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、対象企業の独自技術、強みなどについて理解しP Rポイントを整理できる。成果を基にP R原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。学外実務者との打合せを円滑に実施できる。また、打合せ記録を作成・保存できる。 原稿作成に関する課題4
	12週	<ul style="list-style-type: none"> 原稿作成 対象企業へ必要素材の依頼、取材の補足。 対象企業へ確認・評価・修正 	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、対象企業の独自技術、強みなどについて理解しP Rポイントを整理できる。成果を基にP R原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。学外実務者との打合せを円滑に実施できる。また、打合せ記録を作成・保存できる。 原稿作成に関する課題5
	13週	<ul style="list-style-type: none"> 原稿作成 対象企業へ必要素材の依頼、取材の補足。 対象企業へ確認・評価・修正 	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、対象企業の独自技術、強みなどについて理解しP Rポイントを整理できる。成果を基にP R原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。学外実務者との打合せを円滑に実施できる。また、打合せ記録を作成・保存できる。 原稿作成に関する課題6
	14週	<ul style="list-style-type: none"> 原稿作成 対象企業へ必要素材の依頼、取材の補足。 対象企業へ確認・評価・修正 	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、対象企業の独自技術、強みなどについて理解しP Rポイントを整理できる。成果を基にP R原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。学外実務者との打合せを円滑に実施できる。また、打合せ記録を作成・保存できる。 原稿作成に関する課題7
	15週	<ul style="list-style-type: none"> 成果発表 相互評価 	成果発表を通して、各企業の独自技術、強み、P Rポイントを理解し、地域を支える産業と技術について理解を深める。 課題：発表・報告資料に関する課題
	16週	<ul style="list-style-type: none"> 成果発表 相互評価 	成果発表を通して、各企業の独自技術、強み、P Rポイントを理解し、地域を支える産業と技術について理解を深める。 課題：発表・報告資料に関する課題

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週			
基礎的能力	人文・社会科学	社会	現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	4			
			汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	4		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者の意見を聞き合意形成することができる。	4			
				合意形成のために会話を成立させることができる。	4			
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	4			
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	4			
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	4			
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	4			
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	4			
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	4			
	目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	4						
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	4		
自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。					4			
						高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	4	

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	提出物	合計
総合評価割合	0	40	40	0	0	20	100
基礎的能力	0	40	40	0	0	0	80

專門的能力	0	0	0	0	0	20	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0